

令和 7 年度第 2 回朝来市こどもまんなか推進本部職員プロジェクトチーム会議 グループ対話内容記録

…キーワード

A 班

■朝来市のこどもの幸せの循環を考えるために大事にしたいこと

大事にしたいこと	内容	他グループからのコメント	課題 No (参考)
自分は自分でいいという 自己肯定感を育むこと	- 誰かに比較されず、ありのままの自分を認めてもらえること。 - 人と比べない、一人一人を認める。 - 人の目を気にしない。 - 人口で語るのではなく、〇〇さんで語り合える、仲間になる。 - 人口が少ない朝来市だからこそ、一人一人を大切にできる、向き合える。	一人一人に向き合うことは朝来市でならできる！	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
一人の人として尊重されること	- こども扱いしない。 - 大人の「～したげる」上から目線はダメ！ - こどもと大人は対等の関係。 - 大人とこどもの信頼関係の構築が大切。	大人がこどもの意見を認め、共感を示すことが大事！	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
自分の希望に合わせて選択できること	- 地元（朝来市）で自分のやりたいことの実現可能性を高める（趣味、仕事）。 - やりたいことを我慢せずできる（勉強、遊び、部活）。 - 自分の希望にあわせて選択できる。環境や経済的などにより我慢しなくても良い。	郷土愛を育む。	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
意見を伝えられる・SOS が言えること	- SOS を言っても良いと思えること。 - 家庭でも学校でも対話することが大切。 - 言ってもどうしようもないと思わず、意見を伝えることに意味があると思えること。 - 進路含めてやりたいことを伝えることができる。	- ありのままに発することができる環境。 - 親は「ダメ、ダメ」でなく、こどもに参加させてみる。 - 意見を言っておしまいではなく、きちんと意見を受け入れ、反映することも必	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画

	・ 「できない」と親や大人が決めつけない。	要。	
地域の一員として尊重されること	・ 地域が居場所であると感じられる。 ・ 朝来市（地域）に愛着を持つ、好きになる。 ・ （区やグループの）一員として話してもらう。 ・ こどものすることに対して怒らず、気かけ、見守る。		【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
だれもが参加できる・居場所があること	・ インクルーシブな居場所・人とのつながり。 ・ 障害の有無に関わらず参加できるコミュニティ。		【6】こども・若者の居場所・体験活動
こども時代を思いっきり楽しめること	・ 学校生活を思いっきり楽しむことができる。 ・ 一人じゃないと感じられる。 ・ 「We」であること、仲間がいること。 ・ 何かのコミュニティに所属している。 ・ 一緒にいたいと思える人がいる、心地よい、参加しやすい場。 ・ 誰かと一緒に困難を乗り越える経験、同じ目標をめざす経験、一緒にやる経験が大切。 ・ 年上の大人を身近に感じることができる。 ・ 同じ趣味・関心がある人と、好きなこと、やりたいことでつながることができる。	・ しくみづくりが大切、受け身にならない。	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画／【6】こども・若者の居場所・体験活動
安心してチャレンジできること	・ 失敗しても受け入れてくれるまち・地域。 ・ 失敗を認め合える。 ・ 中高生がやってみたいことを発言できる、がまんしない、チャレンジできる。	・ やりたいことをかなえるために何ができる？と誰もがポジティブに考えること。 ・ とにかくやってみることが大事。 ・ こどもの失敗って？	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画

■こども施策のアイデア、改善点

キーワード	内容	他グループからのコメント
選択できる	・ 経済的な支援策等を中高生にも伝える（がまんしなくてもいいと思えるように） ・ こども・若者の相談先を知ってもらえるようにする。相談してもよい、気軽に相談できる場をつくる。	
伝えられる	・ こどもの思いを引き出す人、聞く人が必要。	・ コーディネーターなど（こどもの思いを引き出す人、聞く人）を育成する。
だれもが参加できる・居場所がある・思いっきり楽しめる・チャレンジできる	・ 居場所・場づくりにおいて： － 強制感がない、地域づくりに強制参加させられない、雰囲気もない。 － 堅苦しくない。 － 楽しそう。 － 若い人が参加している。 － 誘いあって参加しやすい。 － 自分のタイミングで参加できる。 － 開かれている、情報がオープンになっている。 － 寛容性、チャレンジしやすい、「will」を発言しやすい。	・ 疎外感を感じない空気が大切。 ・ 大人が寛容性をもつことが大事。

B 班

■朝来市のこどもの幸せの循環を考えるために大事にしたいこと

大事にしたいこと	内容	他グループからのコメント	課題 No (参考)
集える場（交わる場・出会いの場）があること	〔こども〕 - こども同士のつながりが少ないように感じる。こども会くらいでしか出会わない。いろんな出会いの場があればいいと思う。 〔高校生〕 - 高校生は友達と集える（出会える）場所を求めている。 - 図書館は静かすぎるので、そうではない集まりやすい場所。 - 遠いに行くのが面倒になる。高校生は自分で（自転車など）移動しない。親や祖父母による車での送迎で移動することが多い。または歩いて移動する。 〔子育て世代〕 - 豊岡市の豊岡駅前にある WACCU TOYOOKA こども広場。		【6】こども・若者の居場所・体験活動
地域が家族（地域の子をほめる・しかる）	- 家族や学校以外の多様な人とのつながり。 - 多世代でつながる。 - デジタルがすすんでいるが、あえてアナログのつながりを求めているのではないか。 - デジタルにないあたたかさ。 - デジタルとアナログの共存が必要。 - こどもたちは AI に何でも聞いてしまう。家族や保護者にまづは聞いてくれたらいいのと思う。 - 昔にくらべて地域でのしがらみは減っている。子育て世代は忙しいが、子育てが終わった世代はゆとりがある。 - 相互の歩みよりが必要（子育てとそれ以外の世代）。 - 核家族や共働きが多い。 - 参加してみたいという声があってうれしい。 - 関わりの少なさが配慮を必要とするこどもや若者に影響している。	- 家族の関係とフォローできる。 - U39 カフェ、人数が多い世代の意見が強くなっちゃうことも。年齢を制限した集まりにする。	全般

受け止めてもらえる環境であること	・（こどもが）環境に左右されないように。 ・自由に意見してもいい環境が必要。 ・携帯で色々調べられる。連絡を断ち切れない、あたりまえだと思こんでいることが多い。	・大事！自己肯定感のUP。 ・自己の想像にもつながる。 ・ありのままを認め合える環境づくりが大事。	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
相談先を伝えること	・伝えていいことを伝える。 ・「困った、助けて」を言えること、言える場所。 ・ちょっとしたことでも相談できる場、つながりが必要。 ・ちょっとした生活の困り事を聞ける場所。つながりがない人はどこに言えばいい？ ・生徒手帳に相談 QR コードがある。 ・若草寮出身のこどもたちは終業後に帰る先がない。寮を出ると住む場所もない。 ・中学から高校が大きな壁になっている。 ・支援がつながらない。 ・言語化してこどもたちに伝える。 ・勉強したいけれど、学校に行けないこどもたちが勉強できる場所。夜間学校。豊岡にある。 ・多様な年代でいつでも学べる。学び直せる。	・大人が受け入れる、対応する体制をつくる（学校が窓口）。 ・大人が聞く、収集する力が大事。	【2】～【5】切れ目のないこども・若者支援 配慮を必要とするこども・若者の支援
SOS を出す、出し方を学ぶこと	・社会に出る前の高校生時代に学校と連携しておく。 ・小学生から「困ったら相談する」ことを伝えていつている。 ・自殺対策（自分を知る、社会に出るスキルがあるかどうか） ・困難を感じても SOS を出せる取り組みが必要。 ・受け止め先がない、相談先がない。 ・学校を辞める時に SOS を出せる場のパンフレットを渡す。 ・年齢があがると経験からどうせ聞いてもらえない、聞いてもらえないなら言わないと思うってしまう。 ・SOS を出さないほうがいいという感覚になっている。 ・思春期は（悩みごとを）言わないほうがいいと思っている。 ・否定をされずに聞いて貰える場所。一旦受け止めてもらえる。	・高校生が「どうせ」と思わなくてもいいように、小・中学生時の経験が大事。 ・大事！SOS を出しやすいこと。 ・SOS を引き出せる人を作っていく。 ・道しるべ。こんなふうに歩めるよ！があるといい。	【2】～【5】切れ目のないこども・若者支援 配慮を必要とするこども・若者の支援

その他	・ 放課後デイサービスが不足している。本来なら、放課後デイサービスに通うようなこどもが学童に通っている。		【2】～【5】切れ目のないこども・子育て支援
-----	--	--	------------------------

■こども計画のキーワード

キーワード	内容	他グループからのコメント
仲間・つながる・会話でつながる	・ 認めてもらえる、居場所。 ・ 話ができる、キャッチボールができる（SOS を出したことに返答できる）。 ・ こども同士、地域の人とのつながり。	・ いいね！学校外でつながれる、ホームグラウンドと感じられる。
共感・認めあう	・ 自分の存在（意見を含めて）受け止め、認めてもらえてゆるっとしたつながりがあるといい。 ・ 違いを OK としてもらえ、自分も OK と思える環境の中にいること。	・ 「ゆるっと」がちょうどよさそう。 ・ 「ゆるっと」が田舎感がなくてよい。 ・ 失敗をしてはいけない感、失敗をおそれず、失敗を認められる寛容な環境。 ・ タイパを求めすぎ。
なんでも言えること	・ どんなことでも出していい。 ・ 困っている、助けてと発信することができる。 ・ 自分が駄目だと思う前、失敗を繰り返す前に何かできないか。それが若者の自殺対策になる。困窮対策にもなる。 ・ 早め早めの SOS が必要。 ・ 言語化してこどもたちに伝える。	
ホームグラウンドとしての魅力、帰りたくなる魅力	・ 朝来市のこどもは高校から市外の学校に通う子が多い。外に出ると以外と朝来市のよさがわかる。 ・ 高校生に市のアピールは届いているのか。 ・ 一度朝来市から出ると、朝来市の良さがわかる。 ・ 朝来市は車があれば不便じゃない。子育ての環境も充実している。環境が良い、広くゆったり暮らすことができる。	・ 帰る場所があるっていいね！ ・ 出るのは仕方ないが、帰ってきて欲しい、帰りたくなる場所に。

C 班

■朝来市のこどもの幸せの循環を考えるために大事にしたいこと

大事にしたいこと	内容	他グループからのコメント	課題 No（参考）
殻を破る、チャレンジ、自分から、やりたいことができる	きっかけはあってもどうやって実現するかが問題。<u>道筋や道標が必要。</u>	- 伴走するコーディネーターが大事！ - 変更可能な道標がいい。 - 一緒に考えて、失敗も OK。	【6】こども・若者の居場所・体験活動
明るく、楽しく、前向き	子どもはおもしろくないことはやらない。		【6】こども・若者の居場所・体験活動
こども王国	<u>こどもが王様！</u>という考え方で、ルールをこども自ら決める。同じ世代の意見が通る。 - こどもでも大人に勝てるものがあるのに気づいていない。子どもの「スゴイ！」を認めて活かす。 <u>大人が言うことが正しいわけではない。</u>自分で考えよう！鵜呑み禁止！ - あさご未来会議などで、高校生のリアルな意見で現実を見る。子どもの意見はとても参考になる。	理解する際に「こども扱い」しないように。	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
まずはいろんな人に出会って「知る」	- 昔は外で遊んでいたが、今は家でネットを介してつながっている。いろんな人に出会う場がないかも。 - ネットで出会っている可能性もある。子どもにとっては、リアルもネットも両方当たり前。 - ゆるいつながりのなかに、ある程度共通の価値観やルールによるまとまりや規制が必要。今の規制やルールはきつすぎる。<u>ちょうどいい自由がいい。</u> - 普通は普通じゃない。「普通」はいろいろある。いろんな人がいて、それぞれの個性を当たり前と思えるようになるといい。	<u>多世代</u>との交流の中でいろんな価値観が知れる。 - 自由と責任。	【6】こども・若者の居場所・体験活動
（大人の）価値観のアップデート	まだまだ年配の意見が優先される文化。年長者の理解が必要。	- 大人の勉強、アップデートが必要。 （価値観のアップデート）とても大事！一部の人のだけでなく全員。	【1】こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画
暮らしの基盤	小・中学校が楽しくて行きやすいことが大切。		全般

■こども施策のアイデア、改善点

キーワード	内容	他グループからのコメント
子どもが地域活動で役割を持つ	・ 地域のバーベキュー大会を子どもに任せてみる。好きにやってみ〜と言ってあげるといい。 ・ 自治協の予算に「子ども予算」をつくるといい。 ・ 子どもの自主的な活動にはコーディネーターとなる大人が必須。 ・ 地域おこし協力隊もいるが、継続するには事業化して仕事にしないといけない。ノウハウも循環させていく必要がある。	・ こどもに裁量をもたせるのはとてもいい。 ・ こどもがやりたいことを実現できる予算の確保が必要。
居場所づくり	・ 多世代にすると集まりにくいのではないか。「U39 Café」など世代を限定するのもいい。 ・ 自治協サロンはおじいちゃん、おばあちゃんになっちゃう。屋内公園もおじいちゃんおばあちゃん対象の運営になってしまう。 ・ 例えば、カフェをやるとして、どうしてもお客さんはシニアが多くなるので、こども対象の居場所などの完全民営は難しい。かといって完全行政運営だとおもしろくない居場所になりそう。 ・ 場所は行政が提供し、高校生が自分たちで運営するなど、公民連携のかたちが必要。子どもが責任を持って運営するために、高校生起業もある。行政は空き家活用の仕組みづくりで支援するなど考えられる。 ・ 複数の居場所をつくるのは朝来市ではむずかしい。いろんな機能を複合した居場所をつくるしかない。 ・ 高校生議会はいい仕組みだが、単発の取組みではなく、一貫して議論して意見が通るようにすべきである。	・ どうしたら民間活力がUPできるか。中間支援組織やコーディネートを担う団体の育成が必要。 ・ 企業も参加できるとよい。 ・ それぞれの分野でこの人に任せれば安心という人がいればよい。